

牛群検定通信 No143

～ 春を迎えるにあたって（2） ～

最近は大雪や寒波がやってきて牛の管理が大変でしたが、立春を過ぎ、寒暖を繰り返しながら、春は確実に近づいてきています。そのような時期に注意すべきは、牛の背中の子ケです。この主な原因は、タンパク質不足で見受けられる症状で、栄養バランスが崩れたことを意味しています。この時期の蛋白質不足に陥る原因は、被毛が冬毛から春毛にかわる準備が起り始めるためその栄養が必要となり、栄養要求量が増加して栄養バランスが崩れ、子ケが出ることになります。また、自給飼料を作っておられる方で、イネ化牧草のサイレージ（イタリアンサイレージなど）からコーンサイレージへの切り替えを行うときにもこのようなことが起ります。コーンサイレージはイネ科牧草サイレージに比べタンパク質が低いことに加え、イネ科牧草サイレージは溶解性たんぱく質が特に高いため、切り替え時にはタンパク質飼料の増給を行わなければなりません。更に、寒暖を繰り返すとき、寒くなってくると牛は体温を維持するためエネルギーを多量に消費するようになり、それまでより多くのエネルギーが必要となり、今までと同じエサ給与を行っている場合エネルギー不足となり、それが吸収タンパク質の不足となって、子ケが出るようになります。

このようにフケが出る状況は、タンパク不足の時とエネルギー不足の時と両方ありますので、いずれの場合も、牛をよく観察して、原因を正しく推測し、タンパク質を増給するのか、エネルギーを増給するのか、適切な対処を行ってください。また、紙面の関係で詳しく述べる事が出来ませんが、ビタミンAや肝臓も関与しており、この時期は肝機能に特に注意を払う必要があります。

上述しましたが飼料の切り替えについては注意が必要です。濃厚飼料を切り替える方は余りないと思いますが、粗飼料の場合は自給飼料を給与している方は勿論のこと、購入飼料の方の場合でも年に何回か変わる場合があります。

粗飼料の変更と言っても、コーンサイレージからイネ化牧草のサイレージに変わる場合もありますし、品種は同じでも番草が変わったり、年度が替わったりして成分が変わることは良くあります。購入飼料においても、同じ草種でもロットの違いによって成分や消化のスピードが変わることが良くあります。このような粗飼料の切り替え時に気をつけなければならないことは、まず、ルーメンの微生物がその切り替えに対処出来るよう、少し時間をかけて切り替えることです。ルーメン微生物がその飼料構成に慣れ、十分能力を発揮できるようになるには3週間ほどかかると言われていますが、現在ではそのような時間的余裕がなく、割と短期間で切り替えている例が多く見られます。特に乳量の多い牛群を飼っておられる皆さんは、牛の代謝スピードが昔に比べて数段早くなっており、ルーメン微生物は非常にデリケートになっていますので、今までになく注意して、ルーメンの変化、粗飼料の切り替えに注意しなければなりません。飼料を与える順番やタイミングを成分や消化スピードを考慮して、変えていかなければなりませんし、糞の性状が急変していないか等、観察により多くの時間をかけなければなりません。このことはTMRを給与している方も全く同じことが言えますので十分注意してください。